

4	イリス「中でもマツリは、相当な幻術使い。幻で相手を翻弄して、戦わずして勝つ、を心情としています。性格も狡賢（さうじやう）《ずるがしこ》くて強く、曲者中の曲者ですよ」
3	イリス「確かに、マツリもまた、目がきりりとした美女です。でも油断しないでください。キツネ族は身体能力こそたいしたことはありませんが、強力な妖術を使うことで有名な種族です」
2	アリス「キツネ族っ。名前を聞いただけでケモノ耳の可愛い女の子が出てきそうな気がするね！ うわー、楽しみだなあ！」
1	イリス「ハーレムバトル、今日が二回戦ですね。今回の相手は、キツネ族のマツリと言います」

8	イリス「これを勝てば次は決勝です。よろしくお願いします」
7	アリス「わかってるわかってる。イリスちゃんとエッチするためにも、絶対勝つかからさ」
6	イリス「……試合前から気が抜けすぎてませんか？ そろそろ試合開始ですから、私は行きます。くれぐれも注意してくださいね」
5	アリス「そういう人ほど、抱いたときの乱れ具合がたまらないんだよね〜♪」

13	アリス「えっ!？」
12	ファン2「アリスさん、試合前に押しかけてごめんなさい!」
11	アリス「ふえ? イリスちゃんが戻ってきたかと思いきや……あなたは? ていうか、超美人!」
10	ファン1「お邪魔いたします、勇者様」
※991…ガチャッと木製のドアを開ける音	
9	アリス「ふふふ♪早く出番こないかな。目がきりりとしたってことは狐目って感じなのかなあ。気の強そうな美女ってことよね、ああ! 楽しみ〜♪」

17	16	15	14
ファン5「このたびは、アリス様に抱いてほしくて……やって参りました」	ファン4「ある意味そうなのかもしれんえ。わたくし達は、あなたに憧れを抱く者」	アリス「うわ！？ 私のファン！？ って、何！？ 次々に美少女とか美女が控え室入ってくるんですけど！ もしかして天国！？」	ファン3「前回の戦いぶりを見て、私達、あなたのファンになっちゃいました！」

22	21	20	19	18
ファン8「その通り、お願いなのお。私のこの火照った身体を… …好きにしてえ〜」	アリス「えへっ、えへへ♪そんなっ、裸で抱きついてくるなんて…うふふ。ほんとに私に抱かれにきたんだね！」	ファン7「地球の勇者あ〜っ」	ファン6「アリスさん」	アリス「ちょっ！？ ええええええ！？ みんな服脱ぎ始めて！？」

26	25	24	23
<p>実況「どうしたのでしょうか。間もなく試合開始ですが、アリス選手が現れなければ、ヒト族は敗退となってしまうです」</p>	<p>マツリ「ほほほ。わたくしのお相手はどこで油を売っておられるのでしょうかねえ。このままではわたくしが不戦勝になってしまうわ」</p>	<p>イリス「……アリスさん、一体どうしちゃったのでしょうか。試合も、あんなに楽しみにされていたのに……。マツリはもうとつくに待機してるんですよ」</p>	<p>実況「そろそろ試合開始時刻ですが……。今回注目のヒト族代表、アリス選手がまだ現れません」</p>

30	29	28	27
<p>マツリ「なんてこと……。わたくしの幻術をただのエロテクニクだけで破ったというのですか……？ あの人数を……それ もこの短時間で全員？ まったく、馬鹿げてますわね……」</p>	<p>アリス「いやあ、私のファンって子がたくさん詰めかけてきてさ、 抱いてほしいっておねだりされちゃって……。だから全員イ カせて満足させてきたとこなんだ♪」</p>	<p>イリス「アリスさん！ 遅いから心配しました。今まで何をやって たんです？」</p>	<p>アリス「待って待ってストーっプ！ お待たせー！」</p>

34	マツリ「さあ、わたくしの可愛い触手達、ヒト族の代表を犯し殺してあげなさい！」
	※33 1…闘技場での試合開始の銅鑼の音
33	実況「それでは！ 両雄揃ったところで、試合開始です！」
32	マツリ「ほほほ。そううまくいきますかしら？ 直に味わうわたくしの幻術は、甘くはありませんわよ？」
31	アリス「ごめんねーマツリちゃん、待たせちゃって。ふむふむ、いやあ、やっぱり狐目の気の強そうな美人さんだ！ それに耳とか尻尾とか生えてて、もふもふしてて可愛い！ このお姉さんもイカせたい！ 私もまだまだ興奮がおさまってないからね！」



39	アリス「なんとかって言っても……うきやあッ!? 服破られてっ、いつ、いきなり入れるつもり!? ひぎイツ!?」
38	イリス「それこそがマツリの得意とする幻術なんです! なんとかして打ち破って!」
37	アリス「これが幻術!? どう見ても本物だよ!」
36	イリス「アリスさん、幻術に惑わされてはいけません!」
35	アリス「ええッ!? キツネ族は幻術使いだって聞いてたのにつ、気持ち悪い触手ッ!? きゃあああッ!? ぐっ、放せ! うあっ、ぬるぬるしてっ、気持ち悪い!」

43	アリス「お尻の穴つ、強引に拡張つ、されでる！？　ぐひいいンッ！？　肛門、ぐっぽり広げられてつ、粘膜……グリグリ擦《こす》られながらつ、こじ開けられる！？　ンぐぐぐうッ！？」
42	アリス「はひッ！？　そんなつ、おつ、お尻なんてつ、ダメえ！　入ってこない……ぐぎッ！？　いゝつ、イイインッ！？」
41	マツリ「ほほほ。その子はまだまだ、そんなものではありませんわよ？　ほーら、あなたのお尻の穴も狙ってますわ」
40	アリス「濡れっ……でもないのにつ、アソコつ、ぐいぐい押し広げられる！？　中に触手つ、入ってくる……！？　んぎいいッ！？」

47	マツリ「公衆の面前でこんなにもやるなんて、なんという恥ずかしい雌でしょう。ほほほ。もっと感じさせて、みすぼらしい姿をさらさせてあげますわ。触手達、やりなさいっ」
46	アリス「アソコとっ、粘膜越しにズリズリ擦《こす》れ合って… …っ、ほぐっ、おおおンッ！？ たまんなひ！ ぐほっ、おッ、ン！」
45	アリス「ウルドさんの能力でっ、全部がっ、快楽に変換されるウ！？ ふぐおッ！？ おっほ！ 腸の壁っ、ゴリゴリ摩擦されるのっ、気持ちいい！？」
44	アリス「前の穴もっ、ズボズボされてるのにつ、同時に触手とアナルセックスなんて！？ はぎイツ！？ 気持ち悪くてっ、痛くてっ、屈辱なのに…ぐひおッ！？ おふん！」

51	アリス「肛門も喉もっ、アソコになっはみはい！ おぐッ！？ ごぼごぼオッ！？ どの穴もきぼぢらぐえゝ！ んぼぶっ、 イグ！？」
50	アリス「へっ、変態りやなひイ……！ けろっ、おぶっ、ぐぶぶ ンッ！？ ゴっ、ンゴオ！？ 喉まれっ、汚い触手れ……ゴ リュゴリュされえゝっ、快感止まんない！？」
49	マツリ「あらあら、口を犯されても身体をビクビク痙攣させて感 じるなんて。どうしようもない変態だったようですね。そ のままイッてしまいなさいな」
48	アリス「ぐももッ！？ 触手がっ……ごぼおッ！？ 口にまれ！ ？ ぐごっ、おぼンッ！？ やっ、やべえゝ……！」

55	マツリ「ほほほ。わたくしの幻術の前では、ヒト族の子など赤子の手を捻るようなもの。控え室の幻術は失敗しましたけれど、あれも興奮を煽るのに一役かってくれましたから大成功ですわ」
54	アリス「ひぐッ!? イグ! ぐぶぶンッ!? 三つのいやらひい穴同時攻めえ! 触手攻めらべえええッ!!」
53	アリス「ごぼオッ!? おぼっ!? ぐぼオッ!? らめっ、イグ! 前の穴もっ、お尻の穴もっ……口いつ、喉も気持ちいい! ひゅぐ! イグんんんッ!!」
52	マツリ「遠慮することはありませんわ。さっさとイッて、敗北しなさい!」

59	<p>マツリ「……なんということ。わたくしの幻術に、抵抗してますの……？」</p>
58	<p>アリス「ぶつつつば！ ゲホッ！ エホエホ！ ハアハアハアッ……！ これじゃ……なつ、い……んん！？ 気持ちよくてっ、イグけどオ！ きゅああんッ！？」</p>
57	<p>アリス「がぶつ、あぶぶウッ！？ 何回もつ、イツでるウ！ れっ、れもオ……！ ぐごつ、おぼぼ！？ 違う……っ、違うのオ……！」</p>
56	<p>アリス「ばぶッ！？ ぼぶぶウ！？ ごんなつ、ぎもちいいけろっ……いやっ、らあ……！ イグイグうううッ！！」</p>

63	62	61	60
<p>マツリ「なっ!? 触手が引きちぎられる!? わたくしの幻術がつ、破られる!? ヒト族の子に、そんな力が……ッ!?」</p>	<p>アリス「いっぱい愛撫してっ、はぐウ! 吐息を絡め合って…… あんん!? んっあ、それから、おもつきり喘がせたい! んんんんッ!!」</p>	<p>アリス「触手なんてっ、愛がないもの……いらなひ! くひンッ ! シッ、ハアッ、それよりマツリちゃんとお、直にイ…… 肌を、重ねたい!」</p>	<p>アリス「私はっ、触手なんかに攻めっ、られるよりイ! あひイ んッ!? ハアハアッ、攻める方がっ、イイのお!」</p>

68	<p>アリス「なんだかわかんないけどつ、よくも触手なんて悪趣味なものぶつけてくれたわね！ ちよつと痛い目みてもらうわよ！ そのあとにいっぱいひいひい言わせてあげる！」</p>
67	<p>マツリ「……なんというでたらめでしょう。まさか思いの強さだけで幻術を打ち破るなんて……。どうやらこの相手には、わたくしの幻術は通じないようですわね……」</p>
66	<p>アリス「あ、あれ？ 触手は！？ ていうか、服も破けてない？」</p>
65	<p>マツリ「はぐあ！？ くああッ！ 完全に幻術をはね除けられた！？」</p>
64	<p>アリス「んんん、やああッ！！」</p>



72		71		70		69
<p>アリス「ふう。これでマツリちゃんの幻術を体得したんだよね？」</p>	<p>※se0 .. たくさんの人が歓声を上げている音※se0          .. 魔法を体得した音(エナジードレインして身体に          吸収したようなイメージ)</p>	<p>実況「キツネ族代表のマツリ選手、戦意喪失！ 試合を放棄しました！ よって勝者は、ヒト族代表のアリス選手です！」</p>		<p>アリス「……あ、そう、なの？ じゃあ、私の勝ち？」</p>		<p>マツリ「いいえ。わたくしの負けですわ。幻術が効かないのなら、わたくしに勝ち目はありませんもの。痛いのはご勘弁ですし。それに、こんな大勢の前で破廉恥なことをされるのは、許容しかねますわ」</p>


77	ライラ「へへん、やるじゃねえか地球からきた勇者。その上やる気満々ってところが気に入ったぜ」
76	アリス「おっと、そうだったね！ イリスちゃんともできるし、うふふ♪決勝も頑張るよ！」
75	イリス「あと一回勝てば、誰とだってできるようになるんですから！」
74	アリス「まあそうなんだけど……マツリちゃんとエッチできなかったし、私としては、ちよつと消化不良かも」
73	イリス「あはっ♪アリスさんお疲れ様です！ やりましたねっ、これで決勝進出ですよ！」

82	アリス「顔立ちも猫っぽい鋭さがあつて勝ち気な感じなのに、ものすごい美人！ 美女って言葉、この人のためにあるのかも！」
81	アリス「うわー、すごく強そうな肉体。筋肉が発達してて、でも女の人独特のしなやかそうなシルエツトがあつて……それになんてグラマラスなボディ！ おっぱいもお尻もおっきくて……ジュルっ。ああ、ぷりっしてしながら柔らかそうなのがイイ！」
80	ライラ「ああ、オレはライラってもんだ。よろしくな」
79	イリス「あなたはシシ族の——」
78	アリス「……えと、どちら様？」

86	アリス「決勝って……確かにライラさんは、まだ準決勝を戦ってないんじゃない？」
85	ライラ「はははっ。好き放題言ってくれやがる。けど、オレを見ても怯まないところも気に入ったぜ。オレと決勝で戦う奴がどんなもんか、会いにきて正解だったわ」
84	アリス「へえ。王ってことは、女王様！？ 確かに、エッチ方面でもそんな感じするね。私と同じ、攻め好きの匂いがするよ」
83	イリス「ライラはシシ族の王で、その実力は、一族の中でも群を抜いています。戦うために生まれてきたような人で、手強い実力者です」

90	<p>アリス「私は私にできることをするだけ。ライラさんのお手並み、見せてもらおうわ」</p>
89	<p>ライラ「何も起きないまんまに終わらせてやるさ。見てな、一撃で決めてやるよ。それより決勝戦だ。これまで戦闘でオレを昂ぶらせる奴はいなかった。その点お前には期待してるぜ。オレを満足させてしろ」</p>
88	<p>アリス「それは気が早くない？ 勝負は何が起こるかわかんないよ」</p>
87	<p>ライラ「はんつ。準決勝になんて興味はねえよ。オレが負ける要素はどこにも見あたらねえ」</p>

95	<p>実況「ああー！ 実況の途中でしたが、ライラ選手の拳が炸裂ー！ 一撃で試合を終わらせてしまいました！ まさかの開始三秒！ その強さは圧倒的です！」</p>
94	<p>実況「さあ、こちらの準決勝戦も始まりました！ 注目のシシ族代表ライラ選手は、今回もどのような戦いぶりを見せて——」</p>
93	<p>アリス「うん。ライラさん、あの人なら、本当に楽々と準決勝も勝っちゃう気がする」</p>
92	<p>イリス「やはりシシ族の王、風格もプレッシャーも桁違いですね」</p>
91	<p>ライラ「へへっ、いいぜ。楽しみにしてな。んで、しつかり目に焼けつけてろ」</p>

99	98	97	96
<p>マツリ「ちゃん、とは……。まあいいでしょう。勝者の権利として、敗者を好きにできるのは当然のことですわ。夜のねやへの呼び出しに応じるのもまた、負けた者の務め、ですから・</p>	<p>アリス「きてくれたんだ。いらっしやいマツリちゃん！」</p>	<p>マツリ「ごめんくださな、アリス」</p>	<p>アリス「ライラさん、ほんとに強い。あんな強い美人と戦えるなんて、楽しみだよ。あー、燃えてきた！ 闘志ビンビン！」</p>
<p>※1…ガチャッと木製のドアを開ける音</p>			

104	103	102	101	100
<p>アリス「そういう問題じゃなくってね。無理矢理するのは私の気分が下がっちゃうの。だから抑えられるときはなるべく忍耐！」</p>	<p>マツリ「……あら、わたくしを襲わないのですか？ 抵抗はしませんけれど」</p>	<p>アリス「うう、闘志が漲（みなぎ）っちゃって身体が火照ってるから野獣になろうと思ってたけど……そういうことなら我慢、我慢……」</p>	<p>マツリ「そう言われましても、よく知りもしない相手に、得るものもなく身体を弄（もよ）ばれるのは、気乗りしませんわ」</p>	<p>アリス「そんなに畏まらないでよ。気軽にしてくれないと、私もやりにくいしさ・</p>



108	107	106	105
<p>マツリ「……は？ それだけ、ですか？」</p>	<p>アリス「うーんと、イリスちゃんに出てほしいって言われたから？」</p>	<p>マツリ「どうして、このソルアースの住人でもないあなたが、命を落とすかもしれないハーレムバトルなどに参加されるのです？」</p>	<p>マツリ「……なるほど。どこかがさつなシシ王とは、少し違うようですね。ではアリス、そんなあなたにお聞きしたいことがあります」</p>

112	111	110	109
<p>マツリ「……なんてこと。わたくしには理解できませんわ。けれどアリス、あなたが真っ直ぐで、怪しい企ても練らない、ただのお馬鹿だということがわかりましたわ」</p>	<p>アリス「イリスちゃんだけじゃないけどね。大会で相手に勝つと、負けた人も抱いていいっていうし！」</p>	<p>マツリ「……つまりあなたは、あの小娘一人の肉体を見返りに、命を賭けていると？」</p>	<p>アリス「うん。優勝したら、イリスちゃんを好きにしていって言われたし」</p>

117	116	115	114	113
<p>アリス「うっ、うわ！ マツリちゃんみたいな可愛いお姉さんか          らそんなこと言われたらっ、私一気にテンション上がっちゃ          うよ！ 止まんないからね！」</p>	<p>マツリ「アリスをわたくしに、存分に感じさせて下さな」</p>	<p>アリス「それって、エッチしてもいいってこと？」</p>	<p>マツリ「ほほほ。わたくしなりの褒め言葉ですわよ。アリス、わ          たくしはあなたに興味が湧きましたわ。あなたのことをよく          知るためにも、この身体を、あなたに預けても構いません」</p>	<p>アリス「おっ、お馬鹿は酷いよお！」</p>

121	120	119	118
<p>アリス「ありがと。でももつと、気持ちよくするよ！ マツリちゃんの唇に、舌を割り込ませる……んりゅうッ」</p>	<p>マツリ「ああ……っ。アリスの唇……とてもプルプルしていて、すれるの気持ちいいですわ……っ」</p>	<p>アリス「私、たまらないからさ。もつとキス、しよ……！ んちゅっ、ちゅむ、ちゅ……っ。唇をついばみたいにしてから……擦《こす》り合わせる。ふちゅ、ちゅう……んんっ」</p>	<p>マツリ「ほほほ。どうぞ……んむむっ！？ ちゅっ、ふちゅ、んふうっ。いきなり口付けをするなんて……せつかちです」と</p>

125	124	123	122
<p>アリス「ちゅっ、じゅるうつ。下のお口は……どうなっへるかな……っ？ んっ、んん！ あっ！ 服の上からでも、湿ってるの、わかるよ……！ 私とのエッチに、興奮してるんだねっ」</p>	<p>マツリ「くむウン！？ 服の中に手を……！？ ちゅるっ、おっぱい……撫でられ……！？ ひゅンン！？ グニグニ揉みしらく、なんへ……！？ んくウ！」</p>	<p>アリス「キスしながら……おっぱいも……！ んふう、直に、さわさわ……さわさわ」</p>	<p>マツリ「ふむンッ！？ 舌が、絡んれ……れりゅっ、ちゅるんっ。じゅるウ。レロレロッ、舌同士が擦へこすれ合うの……背中がゾクゾクしまふわ……っ。じゅるン」</p>

129	128	127	126
<p>マツリ「こ、これはちよつと……恥ずかしいですわつ。股間を見られるのは……まだいいとしても、あなたのあ、アソコまで……丸見え……っ」</p>	<p>アリス「それからベッドに横になって！ マツリちゃんが下で、私が上。シックスナインね！」</p>	<p>アリス「ああ！ そう言われると、私も興奮しちゃう！ ね、ねっ、もうお互い裸でしょ！ ほらっ、脱いで脱いで！」</p>	<p>マツリ「はふっ、ハアッ。わたくしの幻術で作り出した子達を、全員イカせただけのことは、はうんっ、ありますわね……っ。うう、あなたの愛撫、とても、身体の芯に響いて……っ、高まりますわぁ……！」</p>

133	132	131	130
<p>マツリ「ああつ、そんな脅し……。ハア、ハアツ、屈したく……ありませんのに……。つ。けれど、このまま気持ちよく……。なりたいっ。アリスの、淫らなアソコ……。舐めるっ、じゅるウ！」</p>	<p>マツリ「ああつ、そんな脅し……。ハア、ハアツ、屈したく……ありませんのに……。つ。けれど、このまま気持ちよく……。なりたいっ。アリスの、淫らなアソコ……。舐めるっ、じゅるウ！」</p>	<p>マツリ「きゃふンッ!? そんなっ、本当にかぶりついて……。!? んひああンッ!? 唇と舌でっ、肉穴の褻……。舐め回してはっ!? ひゃああ!?!」</p>	<p>アリス「マツリちゃんも、私のいやらしいお口……。愛撫して……。! 私はマツリちゃんのアソコに……。しゃぶりつくから! ちゅちゅう!」</p>

137	136	135	134
<p>アリス「もう、皮から飛び出してる肉芽《にくが》を……っ、舌先で……チロチロチロッ！」</p>	<p>アリス「んはぁん！？ それっ、それぞれ！ くっ、頭の中がジーンって重くなるくらい、快感がきてるよ！ はぁあっ、私も……負けないようにしないとっ」</p>	<p>マツリ「ベロッ、レロレロッ。そのっ、ザラザラの舌を……肉穴の中に、差し込んれ！ レリユッ、ジュッ！ れりよれりよ！」</p>	<p>アリス「あふんッ！？ んっ、くうう！？ そう、その調子……！ マツリちゃんの舌、ザラザラしてて……粘膜がこそげてっ、ん、気持ちいいよ！」</p>



141	140	139	138
<p>アリス「んっ、と。まだイツちゃダメだよ。もつともつと、気持ちいい溜めてから、イツた方が気持ちよくなるからさ」</p>	<p>マツリ「ひひやあッ！？ そんなにしたらっ、ダメ！ 腰が勝手に持ち上がって！？ んんんきゅっ、あ！？ イキそ……ッ！」</p>	<p>アリス「マツリちゃんはお姉さんなのに、可愛い！ クリ、ほんとに敏感だね。ほら、啜へすすめてあげる。ちゅちゅっ、じゅる、じゅうう！」</p>	<p>マツリ「ひはああンッ！？ そこはっ、敏感なところですよ！？ あっ、ああ！？ ダメッ、です！ 身体が震えてっ、くふあッ！？ 止まらなくなりますウ！」</p>

145	144	143	142
<p>マツリ「くひあッ!? あっひッ!? クリばかりっ、集中的にされるのはっ、耐えられなひのです、わア! 感じっ、過ぎてえ! イク……っ、んんんッ、イク!」</p>	<p>アリス「ふふふ。涙目になっちゃって、すっごく可愛いよマツリちゃん! まだまだ苛めたくなっちゃう! ジュルジュルッ、ちゅじゅう! チュルチュルチュルッ!」</p>	<p>マツリ「はふッ!? ハアハアハアッ、い……イキそうだったのに、またっ、止めましたわね……っ」</p>	<p>マツリ「そ、そんなこと……ンくひイツ!? またクリをッ!? あひひンッ!? ジュルジュル音を立てて吸いながらっ、ベロベロ舐め回すの気持ちよすぎてっ……いっ! いひイツ!」</p>

149	<p>アリス「あああ！ 涙ながらに訴えられると、ものすごくゾクゾクする！ マツリちゃん可愛すぎ！ うん、うん！ イカせてあげる！」</p>
148	<p>マツリ「はふっ、ううん！ お、お願いですからっ、もう……イキそうなのっ、止めないでください！ あああっ、イカせてほしいのお！」</p>
147	<p>マツリ「ハアハアッ、じ、焦らさないで……ください！ そんなにされるとっ、はうう、頭がおかしくなってしまうそうですわ……！」</p>
146	<p>アリス「ふふっ。まだお預け。ああっつ、卑猥な肉穴がヒクヒクして、中からどろどろの愛液噴き出してるっ。クリちゃんもビンビンに勃起してて……もうたまないんだね」</p>

153	152	151	150
<p>マツリ「きゃひいッ！？ クリとアソコっ、同時イッ！？ 中の肉っ、指でズリズリ一擦《こす》られて！？ イひいイッ！？ イクッ！ イクんんんんッ！！」</p>	<p>アリス「うふふ♪今度はちゃんとイカせちゃうから！ クリちゃんをしゃぶりながらっ、アソコに指を……んんんッ！」</p>	<p>マツリ「はひひッ！？ いひいッ！？ すごっ、ひいッ！？ クリっ、吸われてっ、下腹部がピクピク痙攣しますウ！ ああ あッ！ イク！ イクッ！」</p>	<p>アリス「肉芽を、激しくしゃぶって！ ジュロジュロ！ ベロロッ！ じゅちゅちゅう！」</p>

158	157	156	155	154
<p>マツリ「あふつ、ハアハアハアッ！ きつ、気持ち……よかつたア！ はふつ、アリスう、あなた……最高、れすう……ッ」</p>	<p>マツリ「まだイッてますわ！ きゃあああ！？ イクのつ、止まりませんのオ！ ひああああッ！！」</p>	<p>アリス「いっぱいイッていいよ！ 私の指、いやらしいお口でキユンキュン締め付けてつ、イキまくって！」</p>	<p>アリス「腰持ち上げてつ、ビクンッビクンッて跳ね回らせて！ あああつ、可愛い！ 私も興奮する！ はああンッ！・</p>	<p>マツリ「アリス！ アリスう！ 気持ちいいですわ！ わたくしつ、イッてますウ！ アソコとクリつ、イイ！ ひあああああッ！！」</p>

162	161	160	159
<p>ウルド「アリスお姉様、おはようございます」</p>	<p>※S1…鳥のさえずりなど、朝を連想させる音</p> <p>アリス「ふあぁ〜っ……はぁ〜っ。外は雨も風もすごいし、疲れちゃったから……もう寝ちゃおっと。おやすみ〜」</p>	<p>※S1…雷鳴</p> <p>アリス「うわー、雷まで鳴ってきた。マツリちゃんが嵐になるって言ってたけど、ほんとに当たった……。マツリちゃんを先に帰しといてよかったよ」</p>	<p>アリス「ふふふっ。ふうっ、ありがと……。マツリちゃんもものすごく可愛かったよ……。ハアッ、またしようね……」</p>

167	166	165	164	163
アリス「そっか。壊れちゃったのは残念だけど、自然現象が相手じゃ文句も言えないもんね」	ウルド「そうなんだ。だが、魔神伝説はお伽話。祠は大会が終わってからでも新調すればいいし、たいして気にすることもないだろう」	アリス「祠って、あの魔神を封印したって言ってたやつのこと？」	ウルド「ああ。どうやら祠に雷が落ちたらしいな」	アリス「ウルドさん、おはよう。昨日の嵐はすごかったみたいね」

171	170	169	168
<p>アリス「ああー！ 顔を赤くしながら唇を尖らせるウルドさん、ほんつとに私の心をくすぐるわぁ！ いいね、いいね！ もう抱き締めちゃお！ ぎゅうぐゅうと！」</p>	<p>ウルド「アリスは、私のお姉様なんだから……他の女とイチャついてるのが気になるのは、当然じゃないか……っ」</p>	<p>アリス「あ、ウルドさんまたヤキモチ？ ふふ、可愛いんだから」</p>	<p>ウルド「それよりお姉様……昨日はまた、別の女を呼んでいたようだが……」</p>



175	174	173	172
<p>ライラ「はっは！ この日のためにたっぷり気合いを溜めてきたぜ！ アリス、お前を軽く捻ったあと、オレに服従するまで犯し尽くしてやるからな！」</p>	<p>実況「地球から召喚されたヒト族の代表、アリス選手。対するは、シシ族の代表にして現女王、ライラ選手です。本日も大会史上に恥じぬ名勝負となることでしょう！」</p>	<p>実況「ソルアースにおける部族の頂を決めるハーレムバトルも、いよいよ決勝戦を残すのみとなりました！ 決勝に駒を進めたのはやはりというべきか、注目選手のこの二人！」</p>	<p>ウルド「あんん！ お姉様あゝ！」</p> <p>※00…たくさんの人が歓声を上げている音</p>

179	178	177	176
<p>ライラ「はん！ 幻術の触手なんざ洒落臭え！ オレにこんなもんが通じるかよ！」</p>	<p>アリス「いくよ、ライラさん！ マツリちゃんからもらった能力……幻術発動！ いっけえ、触手達！」</p>	<p>実況「さあ、ハーレムクイーンがこの一戦で決まります！ 皆様、刮目しましょう！ それでは試合、開始です！」</p>	<p>アリス「エッチできるのは嬉しいけど、私はライラさんが可愛くよがる姿を見たいから、勝利は譲れない。勝つのは私よ！」</p>

※BGM1…闘技場での試合開始の銅鑼の音

183	182	181	180
<p>ライラ「動く暇なんざ与えねえよ！ 捕らえた獲物逃さねえ！ それがシシ族の戦い方だ！ だりゃ！ てや！ おりやあぁ ！」</p>	<p>アリス「くううッ！？ なんて重い一撃なの！？ こっちにきて、 私も基礎能力が上がってるはずなのに！ でもっ、スピード なら……！」</p>	<p>ライラ「あったりめえだ！ オレにはお前しか映ってねえからな、 アリス！ どりやあッ！」</p> <p>※ 1…タンつとパンチやキックを身体でガードす る音</p>	<p>アリス「うっわ！？ 触手を引きちぎりながら真っ直ぐ突っ込ん でくる！？ ほんとに効いてない！？」</p>

187	186	185	184
<p>アリス「そうは、させない……！ 凍て付く拳！ だあッ！」</p>	<p>ライラ「おらおらどうした！ 防御ばつかじゃ、オレが勝つちまうぜ！」</p>	<p>アリス「あぐッ！？ くッ！？ 攪乱《かくらん》したいのにつ、一撃一撃が重すぎて、次の動作に移れない！ ガードしてても、その上からダメージがくる……！ 痛みはないけど……このままじゃやられちゃう！」</p>	<p>※<small>※</small>1…タンっとパンチやキックを身体でガードする音          実況「ものすごい打撃戦だ！ あーっ！ アリス選手、ライラ選手の手はラッシュに捕まってしまいました！ 防戦一方です！」</p>

191	190	189	188
<p>ライラ「また防御か！ なら遠慮なくいくぜ！ そんなもんがい つまでもつかない！ おらっ！ おらアっ！」</p>	<p>アリス「が！？ くっ、ダメだ……！ まともに入ったのに、意 にも介してない！ ガードも氷で固めて、エナジードレイン にもなってるはずなのにっ、それも効果がないなんて……！</p>	<p>ライラ「へへっ、やっぱいい攻撃持つてるぜ！ だがそんなんじ や、まだまだ軽い！ うらあ！」</p> <p>※01…タンつとパンチやキックを身体でガードす る音</p>	<p>実況「氷で固めたアリス選手のパンチがまともにヒット！ ライ ラ選手、これは効いたか！？」</p> <p>※02…繰り出したパンチが対象にヒットした音</p>

195	194	193	192
<p>実況「あーと！ ついにライラ選手の攻撃に耐えかねたアリス選手、大きくバランスを崩した！」</p>	<p>アリス「——だッ！？」</p>	<p>ライラ「そろそろおねんねの時間だ！ おりゃあああ！！」</p>	<p>※S01…タンっとパンチやキックを身体でガードする音</p> <p>アリス「くッ！？ ああ！？ ダメージとつ、痛みから変換された快感で……足下がふらく！ このままじゃやられちゃう！？」</p>

200	199	198	197	196
アリス「あ……あれっ？ 攻撃がこない？ あ！？ もしかして っ、これのせい！？」	ライラ「――なッ！？ ひっう！？」	アリス「ぐっ、うッ！」	ライラ「これでっ、終わりだああ！！」	アリス「まずい！」

205	204	203	202	201
<p>アリス「運も実力のうちだし、このチャンスを逃す手はないわ！ ふふふつ、ライラさんがギブアップするまで、しっかりエ ロエロに攻めてあげる！」</p>	<p>ライラ「くつ、そ……つ。力がつ、抜けるう……！ 尻尾……放 せえ……！」</p>	<p>アリス「弱点……！ 苦しまぎれにおもつきり掴んで引つ張つち やったけど、うわ！ めちゃラッキー！」</p>	<p>実況「これはライラ選手の不覚だー！ シシ族の唯一の弱点を、 アリス選手に握られてしまいました！」</p>	<p>ライラ「なんてつ、奴！？ く……ああ、どさくさにまぎれて…… ……つ、オレの尻尾を……掴むなんて……！？」</p>



209	208	207	206
<p>アリス「やめろってわりに、身体はビクビクって気持ちよさそうにしてるよ？　こんなおつきいおっぱいなのに、感じてくれて嬉しいよ！　れろれろンッ！　ちゆるん！」</p>	<p>ライラ「はひッ！？　やめろっ、そんなにおもつきり……舌で転がすんじやつ、くああンッ！？」</p>	<p>アリス「ライラさん、思った通り可愛い声♪それに意外に乳首が敏感なんだね。じゃあもつと、舌先で転がす……チロチロチロッ！　レロッ、ベロベロベロン！」</p>	<p>ライラ「なっ、よせ！？　こらっ、服を脱がすな！　はひッ！？　ぐっ、ういいいん！？　いきなり乳首っ、ああっ、舐めるなあ！」</p>

213	212	211	210
<p>ライラ「くそお……！ 好き勝手……弄びやがって……！ ひあ あ！？ 肉穴の中に指入れて！？ はっ、くハあ！？ クチ ユクチュ音させながら、掻き混ぜるの……やめ……っ！」</p>	<p>アリス「おんなじ匂いを感じてたけど、ライラさんてかなり感じ やすいんだ。ほら、もうアソコの口から、いやらしい液が垂 れてきてる」</p>	<p>ライラ「あっ、くああ！？ 同時になんて……！？ くふっ、あ ！？ 穴の割れ目、指をすり付けるな……！ ああン！」</p>	<p>アリス「乳首舐め舐めしながら、下のお口も攻めてあげる！ 股 ぐらに手を忍ばせて……！」</p>

217	216	215	214
<p>ライラ「おっ、おい……っ、尻に向かって手を振り上げて……何を!？」</p>	<p>アリス「あは♪図星みたいね。じゃ、敏感な肉体にもっと快感を教え込んであげる! でもまずは、ライラさんに可愛くなっもらうために……っ」</p>	<p>ライラ「うっ、うるさい……! いいから早くっ、ハアッ、あっぐ! 尻尾、放せよ!」</p>	<p>アリス「ふふふっ。ほんとに感じやすいやらしい身体なんだね。あ、こんなに感じやすいのを隠すために、攻め役をやったりして?」</p>

221	220	219	218
<p>ライラ「うひ!?　ぐヒん!?　なつ、なるかよつ、そんなもん……!」</p>	<p>※000 お尻をバシバシと何度も引っぱたく音</p> <p>アリス「その屈辱が、あとあと気持ちよくなってくるから、さんんッ!」</p>	<p>※000 お尻をバシバシと何度も引っぱたく音</p> <p>ライラ「ひ!?　くつ、うぐ!?　ケツつ、叩くの、やめろお!　あぐン!　まさかつ、女王のオレが……別世界の勇者なにかに、ケツをはたかれるなんてえ……!」</p>	<p>アリス「ふふん、わかってるくせに。スパンキング!　んッ!　んッ!」</p>

225	224	223	222
<p>ライラ「ひぎゃッ!? ああ!? 今度はつ、痛みイ……!?!? くっそ、オレの身体で、遊ぶんじゃ、ね……ッ!? ひひンッ!?」</p>	<p>※800..お尻をバシバシと何度も引っぱたく音</p> <p>アリス「うーん、いい声だよライラさん! まだまだ鳴かせてあげる! ふん! ン!」</p>	<p>ライラ「ひきイツ!? それつ、クリ……ッ!? くひア!? 痛い刺激のあとにつ、いきなり感じるところ、強く刺激するのは……!?!? ひああ!」</p>	<p>アリス「そういう風にし向けるんだよ。ほーら、今度はここを指先でコリコリって転がす!」</p>

※00 お尻をバシバシと何度も引っぱたく音

229	228	227	226
<p>ライラ「うああ！？ アソコとアソコ、寄せ合って……っ、擦へ こすゝり合わせるウ！？ ひあっ、あああンッ！？」</p>	<p>アリス「ふふふっ。懇願するライラさんにめっちゃ興奮しちゃう！ 私も我慢できなくなったから……っ、貝合わせ……しよ！」</p>	<p>ライラ「んぐひいッ！？ もう痛いのか気持ちいいのかっ、わ けがわかんねえ！ あひひイッ！？ こんな感覚っ、初めて え……っ！ やめて、くれえ……っ！」</p>	<p>アリス「お尻叩いたあとはっ、肉芽をキュッキュツて摘み上げる ……っ！ 指と指の間で……シコシコ、シコシコ……しごくッ ！」</p>

233	232	231	230
<p>ライラ「ひやつ、ひやめエツ!? そんなにしたらつ、オレはつ、もう……もう! ダメだ! インんんんウツ!?」</p>	<p>アリス「ライラさんの悲鳴、最高に昂ぶっちゃう! ほらつ、ほらつ! いっぱい腰くねくねさせて、クリつ、可愛がつてあげる!」</p>	<p>ライラ「はああンツ!? くひツ!? イひンツ!? 腰、くねらせるのはつ、まずい……! オレのクリがつ、思い切りすれてるウ!? ひいいツ!?」</p>	<p>アリス「太腿も、絡ませ合うの! んくつ、んあ! ああつ、ライラさんの肉の穴のつ、入り口のビラビラが……つ、ハアツ、私の入り口に吸い付いてくる! あんつ、気持ちいい! もつと、ぬるぬるになった粘膜同士……すり付け合うの! んんウ!」</p>

237	236	235	234
<p>ライラ「ひぎイツ!? ダメらっ、またイクツ!? ひあああッ!?」</p>	<p>アリス「だってライラさんが感じてる姿、とっても可愛くて興奮するんだもん! 止められないよ! んあ! ああ! 私も気持ちいいからっ、腰、振《よじ》らせるウ! んん!」</p>	<p>ライラ「今イツてるのに!? ひひひンッ!? やめっ! クリ擦《こす》りながらっ、アソコもクチョコチョコ、すり付けるなア!」</p>	<p>アリス「あらら、ライラさんがイツちやった。私はまだなのに…。 …。私が満足するまで、付き合ってもらおうから! んくっ! くんん!」</p>



241	240	239	238
<p>アリス「はああん!? 私もイク! 肉芽からいやらしい穴の入 り口までっ、ライラさんの股間にすり付けて! んんんっ、 イクううううッ!」</p>	<p>ライラ「あひひんッ!? バカ! そんなにクリ、摩擦したらっ、 オレが耐えられ——イグイグうううッ!」</p>	<p>アリス「んくッ! ああんッ! イツきそう! ひあッ!? 私 のクリちゃんも、くりゆくりゆって擦へこすゝれてっ、気持 ちいッ! イクッ! イクッ!」</p>	<p>アリス「イツても許さないからね! んんっ、私もイキそうだか ら! ンン! くああ! ハッ、ぬちよぬちよって卑猥な音 鳴らしながらっ、アソコ同士一擦へこすゝり付け合うのっ、 最高!」</p>

245	244	243	242
<p>アリス「で、あれ？ ライラさん……？ はふっ、ふう……っ。 完全に気をやっちゃってる……。そんなに気持ちよくなつて くれたんだ……。はぁ、すっごく嬉しいよ……」</p>	<p>アリス「はふっ、ハアハアハアッ！ あうう、気持ちよかった ぁ……。ライラさんみたいな美女を抱けて……。おもつきり 興奮しちゃったよ……」</p>	<p>ライラ「ふひ☆いつ、イ……。っ、あっ、ああ……。あ……。ク……。あ ……。っ……。……」</p>	<p>アリス「あっ♪あッ♪気持ちいい！ イッてるウ！ ライラさん のアソコっ、最高だよお！ いいンッ！」</p>

247	246
<p>アリス「はあ……。なんとか優勝できた。ライラさんの攻撃力アップのバフ能力も、ちゃんとコピーできたし。何よりこれで、可愛い女の子達を抱き放題！ 戦いの疲れなんて吹っ飛ばしちゃうほどテンション上がるう！ さてさて、イリスちゃんはどこかな？」</p>	<p>実況「なんとなんと！ あれだけ戦いを優位に進めていたライラ選手が、一つのミスで戦闘不能に！ よって勝者は、地球からやってきた勇者、ヒト族のアリス選手です！ そして、今大会のハーレムクイーンも、彼女に決定いたしました！」</p> <p>※se0 …たくさんの人が歓声を上げている音※se0  …魔法を体得した音（エナジードレインして身体に吸収したようなイメージ）</p>

251	250	249	248
<p>アリス「だからいいんだって。私が大会に出た理由なんて、めっちゃ不純だしさ」</p>	<p>イリス「ふふっ。そうでしたね。アリスさん、このたびは、優勝おめでとうございます。いえ、ヒト族のため、命を賭けて戦いに挑んでくださり、本当に感謝しております」</p>	<p>アリス「いいのいいの。イリスちゃんなら大歓迎！ 祝勝会の方が疲れたくらいだよ。みんなお酒飲み過ぎて悪ふざけが過ぎたよね」</p>	<p>イリス「お疲れのところ、寢室にお邪魔してすみません」</p>

254	253	252
<p>イリス「嫌だなんてとんでもない！ 私はアリスさんのこと……とても、お慕いしております。ですから私を……抱いて、ください……」</p>	<p>アリス「そうそう！ でも、イリスちゃんが嫌なら言ってね。無理矢理って、私の趣味じゃないから」</p>	<p>イリス「ハーレムクイーンになってくださった暁には、私の身体を差し上げる、ということでしたね」</p>